

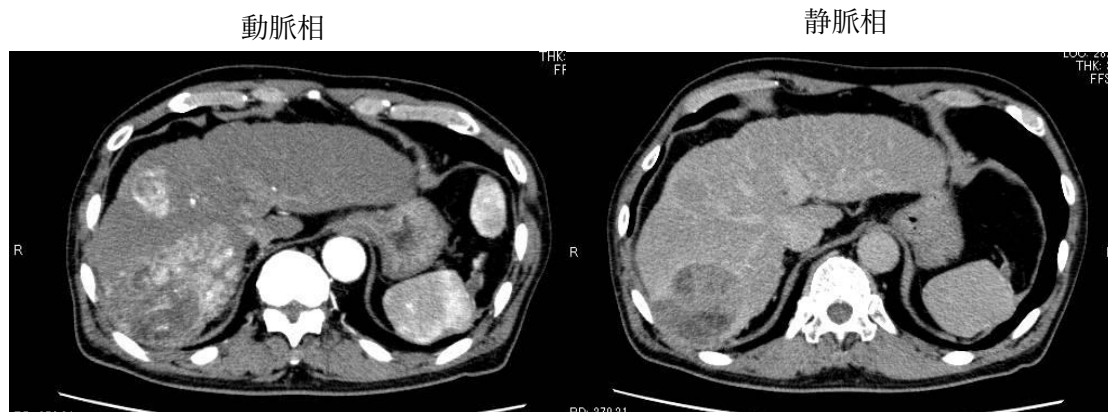
第1問.

次の文を読み、以下の問いに答えよ。

60代の男性。20歳代よりHBs抗原(+)を指摘され、これまでも肝障害を指摘されていたが、精査は受けていなかった。今年の健診でも肝障害を指摘され、腹部エコーを受けたところ、巨大な肝腫瘤を指摘されたため、精査加療目的に当科受診した。

診察時、意識清明で自覚症状はなく食事摂取等も良好。身体所見は、腹部は平坦軟で、圧痛なし。その他特記すべき異常所見も認めなかった。既往歴として糖尿病を指摘されている。

内服薬はなし。血液所見：RBC  $519 \times 10^4 / \mu\text{L}$ , Hct 45.9%, Hb 15.8 g/dL, WBC  $6870 / \mu\text{L}$ , Plt  $8.6 \times 10^4 / \mu\text{L}$ , Alb 4.4 g/dL, AST 49 IU/L, ALT 45 IU/L, LDH 196 IU/L, ALP 291 IU/L,  $\gamma$ -GTP 95 IU/L, T-Bil 1.2 mg/dL, PT 99%, AFP 47 ng/mL, PIVKA-II 17419.1 ng/mL。腹部造影 CT を撮影したところ、下図のような結節を4個以上認めた。最大結節は90mmであった。また CT 上、脾腫を認めたが腹水は認められなかった。



問1. この患者の Child-Pugh score として最も適当な選択肢を1つ選べ。

- (a). Alb 0点、T-Bil 1点、PT 1点、腹水 0点、脳症 1点 合計3点
- (b). Alb 0点、T-Bil 2点、PT 1点、腹水 0点、脳症 1点 合計4点
- (c). Alb 1点、T-Bil 1点、PT 1点、腹水 1点、脳症 1点 合計5点
- (d). Alb 1点、T-Bil 2点、PT 1点、腹水 1点、脳症 1点 合計6点
- (e). Alb 2点、T-Bil 1点、PT 2点、腹水 1点、脳症 1点 合計7点

問2. この患者に対して、検討すべき治療として最もふさわしくないものを2つ選べ。

- (a). TACE(肝動脈化学塞栓術)
- (b). 核酸アナログ製剤の開始
- (c). 肝切除
- (d). 分子標的治療薬の導入
- (e). 経皮的ラジオ波焼灼術

第2問.

次の文を読み、問1~2に答えよ。

80代女性。朝から鮮血を伴う血液混じりの排便を数回認めたため、救急外来を受診した。診察時所見は、BP 120/78 mmHg、PR 85 /min、BT 36.7°C、SpO2 98%(room air)、意識清明で腹痛などの自覚症状はとくになし。身体所見は、腹部：平坦軟、圧痛や反跳痛なし。直腸診を行うと赤褐色調の血液混じりの便付着するものの明らかな鮮血はなし。患者背景としてADLは自立しており、今回のような出血のエピソードは以前もあったが安静にて自然に改善していた。今回は以前より出血量が多かったため受診した。診察後救急外来で血液検査を施行した。

血液所見：RBC  $364 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 、Hct 35.8%、Hb 11.3 g/dL、WBC  $6290 / \mu\text{L}$ (Neut 79.1%、Eos 2.5%、Bas 0.5%、Mono 3.8%)、Plt  $28.9 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 、MCV 98.4 fL、BUN 18 mg/dL、Cre 0.68 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.3 mEq/L、Cl 103 mEq/L、CRP 0.19 mg/dL、APTT 31.1秒(対照：27.6秒)、PT 101%

問1. この患者に対して、救急外来で検討すべき選択肢として最もふさわしくないものを1つ選べ。

- (a). 腹部エコー検査
- (b). 緊急下部消化管内視鏡検査
- (c). 輸液
- (d). 緊急バリウム消化管造影検査
- (e). 内服薬の確認

1年前に撮影されたCTを確認すると全大腸に散在する特徴的な所見を下図のように認めた。



問2. この患者で考えられる鑑別疾患で、下記の中で最も可能性の高い疾患名を1つ選べ。

- (a). 虚血性腸炎
- (b). 上部消化管出血
- (c). 大腸憩室出血
- (d). 直腸潰瘍
- (e). 進行大腸癌

解答：

第1問

問1 c

問2 c,e

第2問

問1 d

問2 c